

高橋 寿郎

1986年7月21日サンケイ新聞神戸サンケイ（神戸版）紙上に7月20日から神戸市立森林植物園で始った特別展「六甲山の四季」の紹介文が出ていた。その中でキベリハムシが紹介され「台湾が原産で、マニアの間では1～3万円の値段がつけられている」と云う記事があった。

たかゞ新聞記事であるとして一笑に付してしまえば良いのかもしれないがマスコミの報道は結構影響力があるので一言苦言を呈しておかねばと筆を執った次第。

台湾が原産は明らかにミス。原産地はホンコン（Hong Kong）である。森林展示館の解説にそう説明してあったことがある。この解説は間違っているからと館長に訂正を申し出たので現在ははずされている。

一匹1～3万円で売られている様な表現。事実とすれば筆者など既に一財産こしらえていなくては行けない。大体キベリハムシが商品として売買されていると云う話は筆者は聞いたこともないし、知らない。筆者も好きな道、また楽しいとあって外国産のコガネムシ標本を大体日本に現在ある9社位の標本商から時々購入したりしている。従ってそれら標本商の標本カタログ、標本ニュースは大体目を通して。キベリハムシが実際に売買されているとすれば何か出てきそうなのだが——、聞て売買されているのだろうか？場所によっては普通にいる虫なのにほんとうにそんな値で売買されているのだろうか、どうも良くわからない。最近ではマスコミも針小棒大の表現と云うか読者・視聴者を引きつける表現をしなくては行けないと云うことから一番わかり易い金で表現する、裏付けがあれば結構だが——（8月2日夜9時からのテレビ大阪を見ていると東京の百貨店での話としてオオクワガタ♂♀¥120,000、ヒラタクワガタ♂♀¥15,000と出ていた）。新聞の報道が真実だとは思ってもいないが少くとも根拠のあることを報じて頂きたい。取材にこられてこちらの話を良く理解しないまゝに誤って記事にして訂正を申し入れるとあれは昨日のことですからと読み捨てと云った無責任な態度では困ったものである。

所で1985年に室井 紳・清水美重子共著になる「室井ひろしの自然百科」（地人書館）が出版され、その頁144-145にこのキベリハムシが取りあげられている。その中で「このキベリハムシはもと台湾産であるが、どういうわけか香港で捕えられたものに命名され紹介されたいわくをもって」とある（p.145）。さらに1986年兵庫県生物学会創立四十周年記念として「竹と共に七十年——室井 紳博士物語」が出版され、そのp.36に同様の表現をされたキベリハムシの解説がある（この生物抄は前記自然百科を要約した様なものである）。

これによるとキベリハムシは大体が台湾産であって、たまたま香港でとれたもので命名記載された

種と云う妙な具合になる。本種が台湾にいるかどうかには就いては戦前永く台湾にお住いになっておられ台湾のハムシの分類研究で学位を取られた中條道夫博士からの直接の何度かの御教示では台湾産は否定しておられたし、当時ハムシの研究の権威 湯浅啓温博士も台湾にはいないのではとも云っておられた。現在の日本を代表する原色図鑑、中根猛彦博士の原色昆虫大図鑑Ⅱ (pl.168, f.11, p.335, 1963) 及び木元新作博士の原色日本甲虫図鑑Ⅳ (pl.35, f.25, p.182, 1984)には共に本種の分布に台湾は入っていない。本種が台湾にいるとされたのは加藤正世博士の分類原色日本昆虫図鑑 9輯, 1933が始めてであろうと考えられる。加藤博士の台湾産昆虫についてはこのキベリハムシ以外にも色々分布上問題のある種があるように聞いている。これらに関しては筆者もかつて報告させて頂いたことがある(採集と飼育 36巻, 4号, pp.88-91, 1974)。

最近のように多くの採集家たちが台湾で採集もしているし、台湾の昆虫標本も数多く日本にきている現状でこれだけ美しい大型ハムシ、ましてや始めの新聞記事の様に高価で売買されているとすれば当然吾々虫屋の耳には何等かのルートで情報として入って来そうなものなのに今の所その様な話も聞いていない。これは飽く迄も筆者が知り得た情報からの判断であるから或は室井博士は台湾産であると云う裏付けをお持ちなのかも知れない(現に日本では兵庫県特産と云われているが隣接の京都府下で可成り多産していたと云う非公式ではあるが確な方の情報も頂いている。自分で確認出来ていないのでそのまゝになっているが — )。

少くとも現段階での台湾産は否定的である(いても不思議ではないように思うが)、このあたり何方か何か御教示頂くことが出来ればと考えている。いづれにしてもマスコミが煽情的な取り扱い方をしてほしくないものだと考える(尚朝鮮に分布するか否かも今一つ良くわからない問題点である)。

末文になって申し訳ないがサンケイ新聞の記事を御教示下さった蜂谷幸雄氏に厚く御礼申しあげる。(付記)本文を書き終った8月3日 福貴正三氏から電話で清荒神あたりでキベリハムシが割合多くいますと御教え下さった。今迄武庫川から東の分布は余り知られていなかった様に思う。この種も分布を東の方にのぼし始めたのかもしれない。

さらに8月16日神戸新聞朝刊に森林植物園の特別展が写真入りで紹介されていた。今回はキベリハムシの分布は中国南部とあり正しくサンケイの様ないゝ加減な記事ではなかった。尤も神戸新聞の記事は、ちゃんと報道者名が明記してあり、それだけ責任の所在がはっきりして気持が良かった。

(AUG. 1986)